

第 41 回土木計画学研究発表会（春大会）：2010.6.5～6（名古屋工業大学）

企画論文部門 セッション討議内容の記録

セッション名：沈黙の交通計画論	
日付： 6月 5日（土）曜日，セッション時間： 11：00～12：00	
オーガナイザー・司会者名（所属）：久保田尚（埼玉大学大学院）、藤井聡（京都大学）	
討議内容	<p>セッション全体：</p> <p>交通計画におけるさまざまな「沈黙」に関わる問題について研究発表が行われ、それぞれの発表について活発な質疑応答がなされた。発表番号 41 では、我が国のパーソントリップ調査における無回答への対応に関する発表が行われ、模擬的なパーソントリップ調査を実施し、その無回答状況を詳細に検討した結果が報告された。発表番号 42 では、地区交通計画の住民参加におけるサイレント層と交通社会実験に関する発表が行われ、住民意識調査の無回答状況や督促調査における回答の違いについて報告がなされた。発表番号 43 では、交通計画のプランニングにおける、合理性の尊重だけでは生み出されない、「物語性」の必要性に関する発表が行われた。</p>
	<p>（発表番号） 発表者名（所属）：(41) 森尾淳（(財)計量計画研究所）</p> <p>Q. パースントリップ調査に今後インターネットを導入する可能性はあるか？</p> <p>→ 東京都市圏では郵送と併用している。画面が紙面とは同一にならないので、回答の同質性については検討が必要。</p> <p>Q. 今回の検討の結果、今後のパーソントリップ調査がどのようなようになっていくか？</p> <p>→ すぐにパーソントリップ調査を簡便なものに変更するというのではなく、簡便な交通実態調査を開発するという方向。少なく配って多く回収する、ということも考えられる。</p>
	<p>（発表番号） 発表者名（所属）：(42) 小嶋文（埼玉大学大学院）</p> <ul style="list-style-type: none"> ● サイレントでいる住民が、「お任せ」でいるのか、他にも違う理由で黙っているのかによって、そのままにしておいていいのか、そうでないのかは変わってくると思われる。
	<p>（発表番号） 発表者名（所属）：(43) 藤井聡（京都大学）</p> <p>Q. 水と油のような対立が有る中で、どのようにして合意や納得に持っていくことができるか？</p> <p>→ 物語を作る、という物語を作ることができる。全体を統合する物語を作っていくことが必要。そうでないと戦いが起こってしまう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 物語性には怖さもある。前に向かった物語ばかりだとエゴイスティックに思われてしまいそうである。過去を尊重する、ということを経験するべきではないか。 ● 環境分野でも、人の話を聞かなければだめだということがある。環境の分野と共通している。

※発表件数に応じて適宜追加してください。